

国内研修成果報告書

研修先：香川県小豆郡小豆島町

日程：2018年8月6日～8月10日

【研修内容】

- ・ 町内の児童館における子どもたちへの学習支援や交流
- ・ 島内で活動されている福祉事業関係者（特別支援学級の介護員や社会福祉協議会）との意見交換
- ・ 現地視察

【小豆島が抱える問題と対策】

- ・ 高齢化

小豆島の高齢化率は2015年のデータによると、41.3%で東京都の高齢化率は22.7%である。総人口の約3分の2が高齢者ということになる。

<http://jmap.jp/cities/detail/city/37324>

- ・ 障害者率

全国の障害者率は2017年度のデータによると、6.7%のところを小豆島町においては7.4%とやや高めである。

www.town.shodoshima.lg.jp

- ・ 部落差別

「部落差別の解消の推進に関する法律」が平成28年12月9日に成立し、同16日に公布・施行されました。この法律は、現在に至ってもなお部落差別が存在し、かつインターネットなど情報化が進展する中で、部落差別が新たな状況にあることを踏まえ、部落差別のない社会を実現することを目的として施行されました。また、基本理念について定めた上で、国や地方公共団体の責務や相談体制の充実、教育や啓発についての規定を設け、それぞれの役割分担を踏まえて、実情に応じた施策を講ずるよう努めるものとしています。差別や偏見のない、お互いの人権が尊重される地域社会の実現にむけ、町においても各種の人権・同和施策を総合的かつ計画的に推進してまいります。（土庄町ホームページより

<http://www.town.tonosho.kagawa.jp/tns/info4050.html>

- ・ 若者支援

・貧困問題

閉鎖的な島内のコミュニティ特有の問題として挙げられるのが、周りの目を気にして支援を受けることに否定的な人が多いという点だ。狭い島内では、噂は一瞬で広まるようだ。だから家の前によく同じ車が止まっている様子を見られればすぐに、フードドライブの支援を受けている家庭なのだと島内で広まってしまう。近隣同士の繋がりが薄い都会との大きな違いである。

このように、さまざまな問題を抱える小豆島では『香川おもいやりネットワーク事業』に参画する形で支援を進めている。

*香川おもいやりネットワーク事業

平成27年4月から香川県内の社会福祉法人施設や社協、民生委員・児童委員をはじめ関係機関・団体が協働し、「生活のしづらさ」を抱え支援を必要とする方をトータルで支える仕組みづくりをめざして、「香川おもいやりネットワーク事業」を実施することになりました。

「香川おもいやりネットワーク事業」は、社会福祉法人（社会福祉法人施設と市町社会福祉協議会）が中心となり民生委員・児童委員をはじめ地域の福祉関係者と連携して、さまざまな原因で生活に困っている方（生活のしづらさを抱えている方）たちに寄り添いながら、訪問・相談等の支援活動等を通じ、誰もが住み慣れた地域で、人と人がつながる中で、その人らしく自立した生活を送ることができる「ふだんの暮らし」を、地域の中でつくっていく取組みを進めていきます。（社会福祉法人香川県社会福祉協議会ホームページ <http://www.kagawaken-shakyo.or.jp/omoiyari/>より）

→香川県全体のネットワークだと、島と県との間で情報のすれ違いやタイミングのずれが応じることがある。そのような例として、フードドライブに関する事案が社会福祉協議会の方との意見交換の際に出た。島の住民がフードバンクを依頼し県が動いたにも関わらず、島内にその情報は届いておらず、必要な人の元に届かなかったようだ。そして余った食料は破棄されたものもあるようだ。

【感想】

小豆島スクールソーシャルワーカーの取り組みについて。わたしは小豆島にて、スクールソーシャルワーカーの指示のもと児童館に三日間滞在し、島内の障害者施設や高齢者施設や児童施設の職員や役場の職員が集まる会議、子ども食堂の事前会議、島内部落問題とLGBT問題についての話し合いにも参加した。

わたしは小豆島スクールソーシャルワーカーの取り組みに対して疑問を呈している。

まず三日間の児童館での滞在について。わたしが児童館で行ったことはひたすら子供たちと遊ぶことのみ。それ以上でもそれ以下でもない。果たしてこれは大学生をわざわざ東京から呼び行うことなのだろうか。中学生でも高校生でもはたまた小学生同士でも一日遊ぶことはできる。ならば、島内の小学生は知らないであろう大学という存在についての説

明や進学について説明したり、学力向上や学習意欲向上のために勉強を教えるなどをした方がいいのではないだろうか。小学生との関わりが利那的になってしまうことは避けられないがだからこそ密度の濃い情報を提供する機会にするべきである。

次に島内の障害者施設や高齢者施設や児童施設の職員や役場の職員が集まる会議について。まずこの会議に参加することを事前に一切伝えられていなかった。児童館での活動を終え、帰路についたと思っていたらそのまま会議所に連れていかれ自己紹介をさせられ会議が始まった。この会議の目的、概要などの説明は一切なく会議は進んでいった。一通り会議が終わると、大学生としての意見を求められ感想を発表する目であった。まず何なのかわからない会議に参加させられ、内容も島内の話で全く意味がわからないので意見の出しようがない。会議ではそれぞれがそれぞれの主張をするのみで話は平行線、それどころか意見の共有の場なのかと思うほど話し合いの時間はなく、SNSで事足りる程度の内容だった。何のために大人が時間を割き集まっているのかわからなかった。

子ども食堂の事前会議について。ここに参加していたのは、役場の元職員や地元の小学校のPTA会長などである。内容としては次週開催される子供食堂の準備についてであった。全体で二、三時間あったが、実際にその話題が出たのは二十分程度で、他は雑談であった。これだけでも酷い話だが、子供食堂の内容もなかなかひどいものだった。流しそうめんをやる予定らしいのだが、場所が街から一山越えなければならない場所で、参加する子供の移動は送迎バスになるという。島内の児童が減っていて色々なところに住んでいるといえど、街からのアクセスがあまりにも悪すぎる。食堂としてはイベントとして流しそうめんをやるのみで、継続性はなく話題性も全くなかった。会議さらにこのイベントについての意義を感じられない。

島内部落問題とLGBT問題についての話し合いについて。ここには島の高校生と島で部落問題とLGBT問題の活動をしている人が参加していた。まずスクールソーシャルワーカーからは島内のLGBTについて聞くと聞いていたので講義形式かと思っていたらわたしが宿泊していたコテージで話し合い形式で行われることを直前に知らされた。いざ始まると開口一番部落問題について話し出した。わたしは部落問題についての知識はなく、東京で感じたことがない。話によると西日本ではよくある問題のようだ。このことはのちに聞いてわかったことで、この時点では全く何のことがわからなかった。

全体を通して。この研修で触れてきた様々な活動は結局だれかのためではなく本人たちの正義感を満たすためのものであった。基本的に話し合いばかりで内容もなく、本気で島を変えようという意思は見られない。

基本的に事前の説明は全くなく話についていけないことがほとんどであった。

このスクールソーシャルワーカーが携わる活動にはまったく意味がなく、非常に非生産的な活動である。この活動を通して、島の大人たちの自己満足という印象が非常に強く、島内の問題を色々話し合っていたが、そもそもその大人たちの活動が自己満足でしかないことが島の問題であると考えた。